中国学校体育の制度史的研究 (II)

(国民政府の中国統一から台湾移転以後現在まで)

笹 島 恒 輔*

(昭和41年4月3日 受付)

Studies of the Constitutional History of Physical Education the Schools in China. (2)

(From 1817 to after the Nationalist Government's Removal to Formosa.)

Kousuke Sasajima (Keio University)

After unification of the country, Nationalist Government revised the 6.3.3. system to fit to the actual circumstances of China in 1928. The educational laws and ordinances for schools were put into force and the standard of the curriculum was provided. It is matter of course that the detailed regulations were provided for the physical education.

Since the onset of Sino-Japanese Incident, the Nationalist Government moved in to the far interior and then moved to Formosa as they were beaten by the Communist forces. In accordance with the transition of circumstances, the standard of curriculum was reformed in 1942 and again in 1962. The objectives and contents of physical education, too, were revised as its present form.

(Research Journal of Physical Education, No. 1, Vol. 12, 1~7, 1967)

承 前

4. 中華民国 II (現行学制)

北伐の完成により中国全土は国民党の支配下に入り、国民政府による国内改革もある程度の成果を収めたが、満洲事変以後の日本の中国進出により民国26年(1937年)に日華事変が起り戦線の拡大にともない国民政府は奥地に移転し太平洋戦争となつた。太平洋戦争も民国34年(1945年)に終了したが、戦後、国民党と共産党の争いは激しくなり、一時優勢だつた国民党は敗れ、民国38年(1949年)台湾に移つ

た。

中国を統一した国民政府は都を南京に定め思想統一工作をはじめ、その方針を徹底するために教育に対しても種々の改革を行ない、直輸入の形式的な6・3・3制の「壬戌学制」を中国の実情に沿うように改めた「戊辰学制」(第5表)を公布した。

この「戊辰学制」を徹底させるために民国18年(1929年)から各学校の「学校法」を公布し、教育部は「学校法」に従つて各学校の規定並に課程標準を公布した。ここに中華民国の学校系統は確立された(第6表)。

「戊辰学制」(民国学校法)の特徴は三民主義による教育、師範教育の充実、男女平等の教

* 慶応義塾大学体育学研究所

第4表 壬戌学制

第5表 戊辰学制

第6表 民国学校法

第7表 現行学制

育，中学校以上の軍事訓練である。各学校の体育の目標もこの線に沿って定められていた。

「民国学校法」になつて始めて各学校の体育の課程標準も定められたが，その後起つた日華事変（民国26年—1937年）により国民政府の奥地への移転，太平洋戦争終結後に起つた国共の相剋の結果，国民政府の台湾への移転（民国38年—1949年）という社会情勢の変化が起こり，それに伴つて各学校の課程標準も社会情勢に適するように民国31年（1942年），民国51年（1962年）と再度改訂された。

「学校法」による体育の授業時数，目標並びに授業内容は「中華民国法規大全」によると，

授業時数

小学校は1～2年 唱歌と半々で週180分，3年120分，4年150分，5～6年180分。外に各種集団活動を1～2年週180分，3～4年270分，5～6年380分。初級中学校，高級中学校，師範学校（体育師範学校を除く），簡易師範学校はともに週2時限，外に朝の体操と課外活動。郷村師範学校は3年前期まで週2時限，外に毎日朝の体操と課外体育。簡易郷村師範学校は4年前期まで週2時限，外に朝の体操と課外体育。実業学校の体育は毎日20分，高級実業学校は週2時限。

体育の目標

小学校中・高学年

1. 児童の身体各器官の機能を良好にし，もつて全身の順当な発育をはかる。
2. 児童が身体活動を愛好するという本性に順応してその運動能力を発展させ，その日常生活の上に国防上必要な運動能力を養成する。
3. 児童の勇敢・敏捷・耐苦・誠実・公正・犠牲的精神を培養し，法を守り，互に助けて愛国的公民道徳を作りあげ，もつて民族を復興し，侮を防ぎ，敵に対する準備をする。
4. 児童が喜んで運動する習慣を身につけ，正しい娯楽の基礎を国民につける。

初級中学校

1. 身体を鍛錬し，身心を健全に発育させ，併せて生活に必要な運動能力を養成する。

2. 団体運動に重きをおき，服従・耐勞・自治・忠勇の心を養成し，規律とその他の公衆道徳を守らせる。

3. 身体反応の鋭敏性を増進し，優美・正確な姿勢をつくり，運動を楽しむ習慣をつくる。

高級中学校

1. 身体の継続鍛錬により身心を健全に発育させ，生活上必要な運動能力を養成する。

2. 団体運動の継続訓練と公民道徳に重きをおく。

3. 身体の発育にともなう不良姿勢を改進し，併せて運動を楽しむ習慣を養成する。

師範学校

1. 身体を鍛錬し，身心を健全に発育させ，もつて民族の振興を期する。

2. 良好な団体生活と余暇を善用する技能を訓練する。

3. 小学校の体育科目を担当するための知識と技能を養成する。

郷村師範学校

1. 2. 師範学校に同じ。

3. 郷村小学校の体育科目を担当するための知識と技能を養成する。

簡易師範学校

1. 身体を鍛錬し，身心を健全に発育させ，小学校教員としての資格を養成する。

2. 良好な団体生活と余暇を善用する習慣を養成する。

3. 小学校の体育科目を担当する知識と技能を訓練する。

簡易郷村師範学校

1. 簡易師範学校に同じ。

2. 天然の環境と団体運動を利用し公民道徳を培養する。

3. 簡易師範学校の2に同じ。

4. 郷村師範学校の3に同じ。

授業内容

課程標準には学年別の詳細な授業内容が示されているが，各学校で実施する種目のみを掲げると，小学校は遊戯，リズム運動，体操，球技，競技，その他（遠足，登山，水泳，ボー

ト、スケート)。初級中学校と高級中学校は実施する種目が同じで、体操、リズム運動、遊戯、巧技、球技、競技、自然活動、国術（中国古来の武術で自衛活動、保健体操を含む）。師範学校は中学校の種目に体育教授法と学科の体育理論。郷村師範学校は師範学校の種目に踢毬子（中国古来の遊戯で銅銭、鉛、錫を皮で包みそれに羽をつけた一種のはねで足で蹴上げて遊ぶ）、縄跳を加える。簡易師範学校は師範学校に同じ。簡易郷村師範学校は郷村師範学校に同じ。

体育の施設については各学校規定によりその施設の規模が定められた。

また、体育教員のの質向上のための国家試験の「体育師範学校学生卒業会考科目」が民国23年（1934年）12月1日に公布された。

民国26年（1937年）7月7日に日華事変が起こり、戦線の拡大にともない国民政府は南京から漢口へ、次いで重慶へと移転した。日本占領下の北京、南京にはそれぞれかいらい政権が樹立され、後に統合されて汪政権となった。この汪政権は国民政府の「学校法」を修正して公布した（汪政権下の学校体育は略する）。

文化的発達から見ればその心臓部ともいべき沿海の諸省が日本の占領下に入つた。中国の専門学校以上の学校は沿海の都市に大半が集中していたためにその影響は極めて大であつた。日本の占領下に入つた諸省の学校は殆んど国民政府治下の奥地に移転した。

民国27年（1938年）3月の国民党臨時全国代表大会において抗戦建国綱領が通過し、その綱領中教育に関するものがあり、それにより学校教育は戦時に適するように改められ、民国27年7月に各級教育実施方案が公布され、民国29年2月14日に初級中学校、高級中学校の各学期毎週授業数を修正公布し、各学校の課程標準も社会情勢に適するように改訂が行なわれ、民国31年（1942年）3月に小学校、9月に師範学校の課程標準が改訂公布された。初級中学校、高級中学校の課程標準は民国29年に修訂が行なわれたが、改訂公布されたのは民国37年12月である。

これらの改訂は戦時に適する様に改めたので授業時数、授業内容にもその点が明らかに現れているが紙数の都合で省略する。

改訂された体育の目標は、

小学校

1. 児童の身体各部の機能を平均的に発育させ、健康で美的な体格を鍛錬する。

2. 児童の身体と健康に対する知識を増進し、勤労に対する習慣と興味を養成する。

3. 児童が団体生活を好むという本性に順応し、その規律ある生活を訓練し、団体生活の道徳を守らせる。

初級中学校・高級中学校

1. 身体を鍛錬し、機能と身体を充分に発育させる。

2. 公民道徳を培養し、団体精神を発揚する。

3. 生活上及び国防上の基本技能を訓練する。

4. 衛生に対する習慣を養成し、衛生に対して十分の注意を払わせる。

師範学校・簡易師範学校

1. 2. 3. 4. 中学校に同じ。

5. 小学校の体育授業と民衆に対する体育指導の知識と技能を教育する。となつていた。

民国31年（1942年）以後行なわれた各学校の課程標準の改訂は太平洋戦争中にその改訂が準備され、戦時中或はその直後に公布されたものなので、共産党との争に敗れ国民政府が台湾に移転しその政府機構をかため戦時体制をしき本土恢復を策するという時代の要求に適しなくなり、時代の要求に適合した課程標準に改める必要がおこり、民国48年（1959年）1月に改訂に関する委員会が設けられ、数年にわたる検討を重ねた結果、民国51年（1962年）7月に新しい課程標準が公布され民国52年の新学年より実施された（小学校が国民学校と改称されたのは民国33年（1944年）3月15日に「国民学校法」が公布されて以後である）。

なお、小学校についてみると「民国学校法」

下で民国21年（1932年）に課程標準が公布され、民国51年（1962年）に新課程標準が公布されるまでの間に社会情勢の変化にともなつて課程標準に4回の修訂又は改訂が行なわれて来ている。

民国52年（1963年）度より実施された課程標準の各学校の体育の授業時数、目標、授業内容は、

授業時数

国民学校は1～2年唱歌遊戯で週180分、3～4年120分で30分授業4回、5～6年150分で30分授業5回、朝の体操、休憩時間の運動15～20分、課外運動毎週少くとも3回、1回30～40分。初級中学校と高級中学校は同じで週2時限、朝或は授業間の体操毎日15分、課外活動少くとも週120分。師範学校は3年の前期まで週2時限、その他は中学校に同じ。

体育の目標

国民学校中・高学年（低学年は唱遊となつていて体育に含まれていない）。

1. 児童に強健な体と魄力を教育する。
2. 児童が身体を動かす基本的方法と能力を指導する。
3. 児童の楽しみの生活を充実させる。
4. 児童に保健の知識と習慣を指導する。
5. 児童に団体生活の基礎を確立する。

初級中学校

1. 身体を鍛錬し、活力を高め、体格を平均に發育させる。
2. 運動競技中に公正・守法・服従・責任・互助・合作等の良い徳性を培養する。
3. 運動を愛好する習慣を養成し、生活を楽しむ基礎を確立する。
4. 運動の基本技能を培養し、安全・自衛等生活適應の能力を増進する。

高級中学校

1. 身体を鍛錬し、活力を高め、体格を充分に發育させる。
2. 運動競技中に公民道德と団体合作の精神を培養する。
3. 運動を愛好する習慣を養成し、健全な心

理を培養し、生活を楽しむ基礎を確立する。

4. 運動技術を訓練し、身体使用の効率と安全自衛等の生活適應の能力を増進させる。

師範学校

1. 身体を鍛錬し、活力を高め、身体を充分に發育させる。
2. 優良な品徳を培養し、団体精神を発揚する。
3. 身体的能力を増進し、以て生活の需要に適應させる。
4. 運動愛好の習慣を養成し、運動に際しては進んで他人を指導し、生活を楽しむ基礎を確立する。
5. 体育知識を充実させ、教授能力を培養し、国民学校の体育を授業する任にたえさせる。

授業内容

課程標準には学年別の詳細な授業内容が示されているが、各学校で実施する種目のみを掲げると、国民学校は遊戯、舞踊、巧技、体操、秩序運動、その他（水泳、スキー、スケート、国術）。初級中学校と高級中学校の教材は同じで主教材と選択教材とに分れている。主教材は体操、遊戯、陸上競技、球技、リズム運動。選択教材は自衛活動、水上、雪上、氷上、その他（庭球、ラグビー、ホッケー、ハンドボール、登山、クロスカントリー、騎射、グライダー、自動車等）で、選択教材は全授業時数の5～30%の範囲内で実施する。師範学校は遊戯、リズム運動、舞踊、巧技、陸上競技、球技、体操、秩序運動、その他（水上、雪上、氷上、自衛活動、その他の運動）。

民国31年（1942年）と民国51年（1962年）の課程標準の改訂では各教材の学年別、男女別の授業時数の%が定められている。民国51年の改訂で南国の台湾では実施不能と思われる雪、氷に関するものが入っており、また、学制には台湾に設けられていない簡易師範学校の入っているのは大陸に復歸した際にすぐに全国的に適用できるために入れられたものである。しかし、改訂された課程標準には簡易師範学校の課程標

準は含まれていない。

師範学校も教員の質の向上を計り師範専門学校に昇格させており、10校中7校までが師範専門学校に昇格した。

体育施設については民国53年(1964年)に公布された「体育实施方案」に詳細に規定されている。

5. む す び

中国に於て最初に公布された近代学制は清の光緒28年(1902年)の「欽定学堂章程」であり、次いで光緒29年には「欽定学堂章程」に代るものとして「奏定学堂章程」が公布された。この両学制は日本の学制を参考にしたものである。「奏定学堂章程」も完全に実施されないうちに清朝は倒れ、中華民国が成立した。

中華民国では民国元年(1912年)に「壬子学制」を公布した。しかし、この学制も中国の国内政情の不安から沿岸の諸省並びに大都市を除いては殆ど実施されないうちに民国11年(1922年)に「壬戌学制」が公布されそれまでの日本式の学制にかえて米国式の6・3・3制を採用した。国民党は中国を統一した民国17年に「戊辰学制」を公布し「壬戌学制」を修正し、この「戊辰学制」を徹底するため民国18年に「学校法」を公布し、この「学校法」に従って各学校の規定を公布した。この「学校法」により国民政府の学校系統は確立され統一して全国的に実施されるようになった。

しかし、日本の大陸進出にともない、民国20年(1931年)に満洲事変、民国26年(1937年)に日華事変と相次いで起こり、日華事変により沿海の諸省が日本軍に占領され、国民政府は奥地に移転し、日本占領下にはかいらい政権が樹立された。民国30年に始まった太平洋戦争も日本の敗戦により終り、中国全土は国民政府の手にもどつたが、戦後国共の内戦は激化し、内戦の初期に優勢だった国民政府軍も民国36年(1947年)後半から守勢に立ち各地を占領され、民国38年には国民政府は台湾に移転した。

このような社会情勢の変化にともない「学校

法」の課程標準も民国31年(1942年)、民国51年(1962年)と時代に適合するように改訂され、体育の授業内容も学制改訂のたびに徐々に整備されてゆき施設についての規定も設けられた。また、中国の複雑な政治情勢から体育の目標、授業内容も時代に則するようにたびたび改められていった。

実業学校の体育については中学校程詳細な規定は公布されなかった。

初期においては文盲率も高く、施設その他も整備されていなかったもので、学制として体育の授業内容その他が定められてはいたが、その規定通りに実施されていたかどうかは疑問である。

体育の授業に関係のある体育教員養成学校の授業内容、初期の体育の授業に影響を与えたと考えられる欧米系教会学校の体育並に1949年に成立した中華人民共和国の学校体育については紙数の都合でふれることが出来なかった。

(本稿は昭和39年度文部省科学研究費〈各個研究〉による研究である)。

文 献

1. 国聯教育考察団：中国教育之改進，p.51, 70, (1932)
2. 欽定章程類纂—第3冊第4冊学務，p.p.64~160, (1908)
3. 大清光緒新法令—第11冊~第13冊—第七類教育 (1910)
4. 多賀秋五郎：中国教育史，p.155, 176, 178, 182, (1955)
5. 呉文忠：部定大学用書体育史，p. 322, 367, (1958)
6. 教育部總務庁文書科：教育法規彙編，p.142, 153, 186, 189, 207, 235, 262, (1919)
7. 余書麟：中国教育史(下)，p. 959, (1961)
8. 王鳳喈：部定大学用書中国教育史，p.p. 303~307, (1944)
9. 中華民国法規大会—民国25年版，p.3826, 3875, 3885, 3924, 3977, 4011, 4047, 4081, p.p.3882~3883, 3921~3922, 3993~3995, 4030~4031, 4064~4065, 4097~4099, 4128~4136, (1936)

10. 教育部国民体育委员会：体育法令 彙編, p.p.11
～51, (1952)
11. 教育部国民教育司：国民学校課程標準, p.p.117
～122, (1962)
12. 教育部中等教育司：中学課程標準, p.p. 123～
147, 388～415, (1962)
13. 教育部中等教育司：師範学校課程標準, p.p.115
～123, (1962)
14. 現代支那滿洲教育資料, p.104 (1940)